



たかがスリッパ、されどスリッパ

先日開催した作品展には、多数ご来園いただきありがとうございました。今年度は子どもたちの身近な「海」をテーマに作品を考え作りました。また、共同製作を始め全体に海を表現した会場は、後日行われた日本財団海と日本プロジェクト「下関の海を知る・感じる・食育イベント」でも採用されました。イベントを通して、参加したさくら組有志の子どもたちはふぐや海洋環境について関心をさらに深めることができたのではないのでしょうか。

さて、10月に3歳以上児棟トイレのスリッパを新しく購入しました。以来、スリッパがきちんと揃っているところを何度も見かけるようになりました。職員だけでなく、何人もの子が乱れたスリッパを揃え直してくれているからです。素晴らしい行動力です。ご家庭の教育にも感服していません。後日この子たちをみんなの前で紹介し、誉めてあげようと思います。



はきものをそろえる

はきものをそろえると 心もそろろう
心がそろろうと はきものもそろろう
ぬぐとときに そろえておくと
はくとときに 心がみだれない
だれかが みだしておいたら
だまってそろえて おいてあげよう
そうすればきっと
世界中の人たちの心も そろうでしょう

この詩は、長野市円福寺の藤本幸邦住職が作られた詩です。戦後、東京に群れている戦災孤児を憐れみ、自分のお寺に連れて帰られたのをきっかけに児童養護施設を開設され、多くの孤児を引き取り育てられました。

当初、施設の玄関を見ると、脱ぎ捨てられた靴が重なったり、ばらばらになったり。住職は子どもたちに「履き物をほったらかしておくと、また戦争になってしまいますぞ。」と諭され、この詩が生まれたそうです。

哲学者で教育者の森信三氏によると、9歳までに次の3つだけを身に付ければしつけは「すべて」だそうです。（「10代のための人間学」致知出版社）

- 1 毎朝親に対して必ず挨拶をする
- 2 親から呼ばれたら必ず「はい」と返事する
- 3 席を立ったら必ず椅子を入れ、靴を脱いだら必ず揃える

こんなことでと思われるでしょうが、こんなことでも毎日となると意外にむずかしいものです。昔から

「靴を揃えると幸せになる」と言われています。その理由は、一つ一つのことにはまずケジメをつける習慣が身に付くからだそうです。森氏の言葉によると「しまりのある」人間になれるのです。

それは、脳科学の研究でも証明されました。

脳の前頭前野のすぐ後ろにある「側坐核（そくざかく）」というところは「やる気スイッチ」と言われているとおり、普段はスイッチがオフの状態だそうです。ところが、履物を揃える、部屋を掃除するなど、ちょっと気分がよくなる小さなことを行うことで「側坐核」のスイッチがオンになり、ドーパミンなどのやる気を起こす神経伝達物質を分泌させるそうです。そういえば私も学生時代、試験前に突然掃除を始めていました。現実逃避のつもりでしたが、逆に効果的だったのでしょうか。

先日アメリカ大リーグで MVP を獲得した大谷翔平選手。

彼がかつて花巻東高校時代、自分の目標を「ドラフト1 8球団」と掲げ、それを目指すために必要と思う8つの要素を書き込みました。その一つに挙げたのは「運」。その運を手繰り寄せる具体的行動として「あいさつ」「ゴミ拾い」「部屋そうじ」など8項目を掲げ、今でも実践しています。大リーグの試合中、ベンチに戻る際グラウンドに落ちていたゴミをさりげなく拾ってポケットに入れたシーンが話題になりました。大谷選手が靴を脱ぎ散らかしているところは想像できませんね。

「誰でもできることを誰にもできないくらい徹底して続ける。」（松下幸之助氏）まさに凡事徹底。たかがスリッパですが、園児の将来への影響力は決して小さくありません。（園長 寺本 明生）